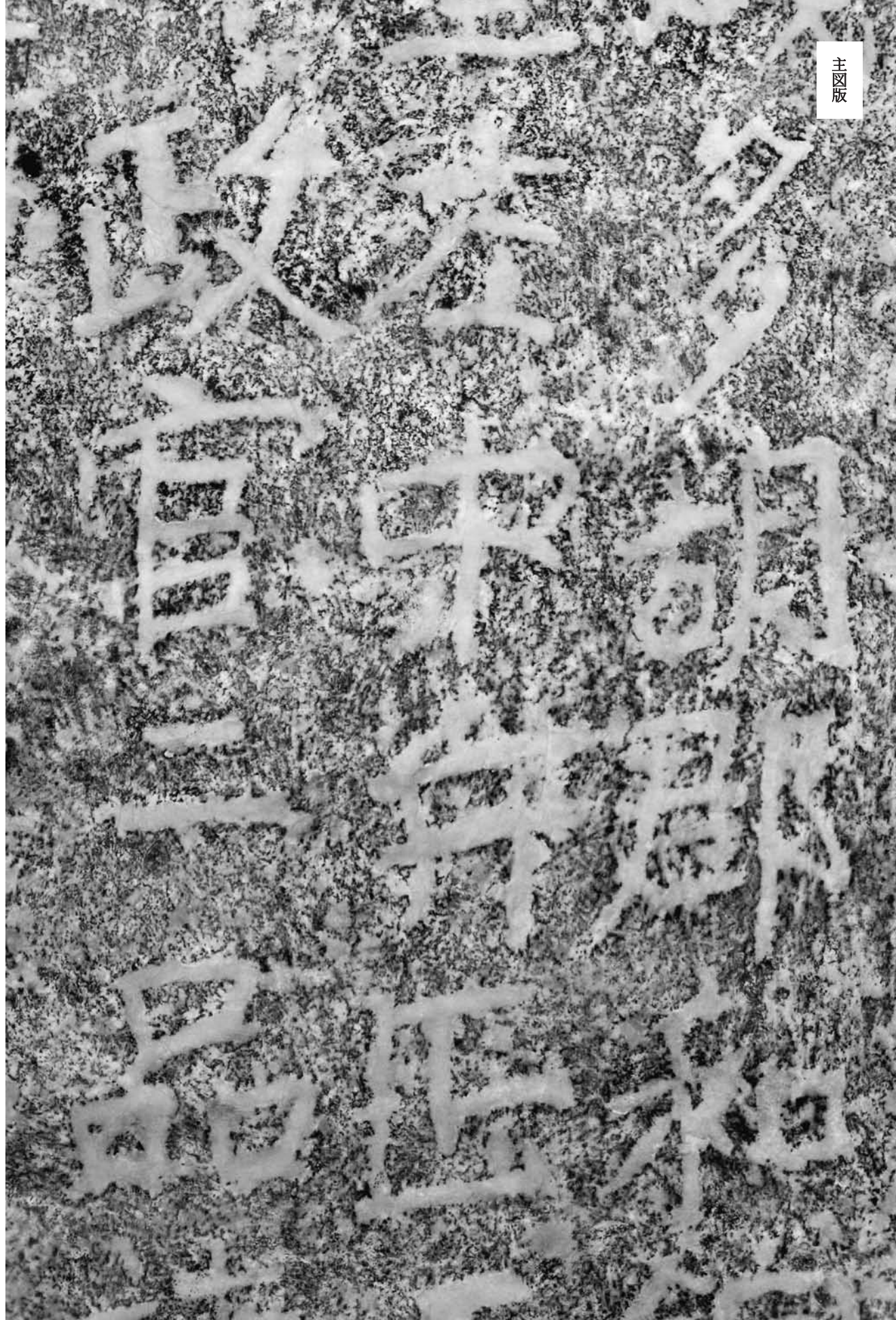


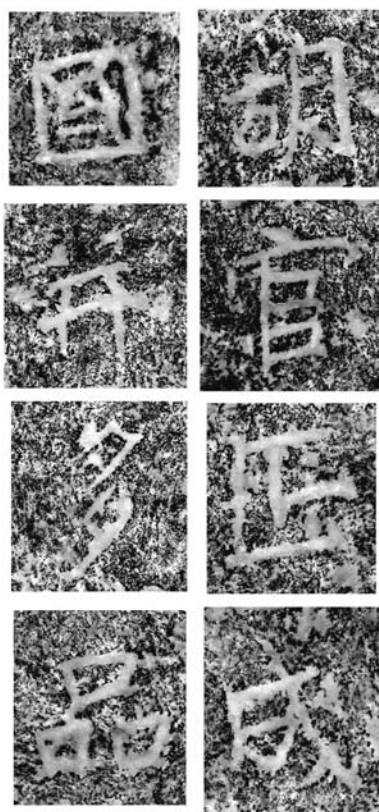


日本の金石文⑥「多胡碑」 八世紀 中葉頃？

図版② 鄭道昭題字と多胡碑の比較



「上遊下息題字」(部分)



「多胡碑」(選字)

図版③



前回の「那須国造碑」「多賀城碑」と共に日本三大古碑の一として、書道史の面では、最も有名な碑刻である。碑文には、和銅4年(711年)に多胡郡が置かれたことに言及していることから、これ以後の建立とされている。碑は、高崎市吉井町に置かれている。古くから信仰の対象とされたのであろうか、同文の碑刻が、他にも幾つか存在するが、拓本から碑文を見ると、吉井町の多胡碑記念館に所蔵される碑(図版③)が、最も優れ、明治前期には中国へも拓本が伝えられたようである。楊守敬は、著作に収録し、趙之謙は、臨書作品を残している。日本の碑刻の中では、文字も大きく書方面でも中国金石文に匹敵する魅力を備えているた

めに、臨書される方も多い。江戸期から近年まで、多くの拓本が取られてきたために市中でも見かける機会が多々ある。碑石がやや粗いために拓本は、六朝の鄭道昭の摩崖刻石に似た趣を示し、時代が稍異なるが書風も近いものがある。北魏体の楷書に近く、文字の構成は安定し、力強く伸びやかな筆勢であり、澄んだ書品を示している。鄭道昭の書とされる刻石の中で、「上遊下息題字」と書風、書品が近いのではなかろうか(図版②参照)。主図版は、碑文の上部を示した。(釈文〓多胡郡和・左中弁正・政官二品)

伊藤 滋 メールアドレス

mokkei@galaxy.ocn.ne.jp

書道芸術院

平成の群像 (2014)



小林 古徑

「いいにおいがする」

入学前の孫が近づいてくる、嗅覚の衰えた私もこの墨の香りが好きだ。

書稿はどのようになるかワクワクし悩み苦しむときでもある。

感動をもちそれをいかに表現できるか師である宮澤梅徑先生より多くの作品を見る、目を肥やすことが大事であると言われ、以来、私は部門を限ることなく「がむしゃら」に見るよう努力し自分の目で、判断し確かめる、全体、一個所を集中したり解説とか

評論、評価なども参考にし本物を鑑賞するように心がけています。

宮澤梅徑先生との出逢いは30年前になります。刻字、個性を生かした一人一人に自由な表現を引き出させるよう御指導していただいております。

文字に立体感を持たせ用材も多種、そのうえ彩色も豊富で無数の変化ある作品となる、書の分野にもこのような魅力ある刻字、これだと思いついておられます。

自書 自刻 書の大切さ、そのために多

くの古典に親しみ、さらに文字の時代感などを加えた総合的な知識を習得しなければならぬ、特に拓本を理解歴史的な事実と推定、肉筆の書、削りの熱情あふれる線、手本は無数にあり困らない。

書稿の線質をだいに保ちつつ、刀で切り込むような鋭い線、体力と先輩諸兄の指導と助言に支えられ。

楽しく夢中になることを頭の隅において日々努めております。

中央、南の両アルプス 雄大な山々を仰ぐ山里に居り 移り変わる季節と緑あふれる大自然の中 説得力のある心に残る作品を、壁に当れば地方から中央へ挑戦したときを思い出し、地域と共に生きがいづくりに参加し、刻字を理解し仲間を増やして、その輪を広げ伝えるために精進して参ります。



豪放磊落

書のひろば

理事長 辻元大雲

(公財)書道芸術院定例評議員会 理事会開催

去る5月17日開催された理事会をうけ、定例評議員会が6月2日(月)開催され平成25年度事業報告、収支決算の承認、26年度事業計画、予算につき報告を行った。更に任期満了に伴う財団理事の選任および監事・評議員の補充選任も併せて行った。新しい公益財団法人法により理事監事評議員の選任は全て評議員会に委ねられている。

更に新理事による最初の理事会が6月12日(木)開催され、新理事会体制が発足した。新体制の全容は今号に掲載されているのでご参照いただきたい。代表役員として理事長を統括、業務執行役員(常務理事)も継続することとなり、会員諸氏の従前に変わらぬご支援ご協力をお願いしたい。

第68回書道芸術院展運営委員会

同日新理事、監事による68回展運営委員会が開催され、特別賞選考委員、当番審査員など主要役員が決定した。展覧会開催日程などは既に3月の理事会にて決定している。今後実行委員

会組織により具体的な準備を行う。更に各部署長による実行委員会が開催され、大野祥雲実行委員長のもと各部署員の検討を行った。

(各部署長)

- ・ 審査部長 後藤大峰
- ・ 総務部長 江本興舟
- ・ 祝賀会表彰部長 三森慧香
- ・ 陳列部長 田村鄭雲
- ・ 学生展審査部長 小伏小扇
- ・ 同総務部長 前田まさ美
- ・ 同表彰部長 平川峰子
- ・ 同揮毫部長 生田翠龍
- ・ 事務局長、次長、会計部長は再任



6月2日の評議員会

(一財)毎日書道会評議員・理事会 下谷洋子氏監事に就任

本院同様理事改選を迎えた毎日書道会では6月13日、定例評議員会に続き

理事会が開催され、25年度事業報告、収支決算の承認および26年度事業計画、予算などが審議承認された。

任期満了に伴う理事改選は評議員会にて決定され、選任された新理事にて新体制が発足した。理事長は朝比奈豊毎日新聞社社長、糸賀靖夫専務理事体制は変わらない。

主な書壇側人事

- ・ 退任される理事(財団顧問に)
飯島春美、関口春芳、関正人、中原茅秋、林竹聲
- ・ 新理事 永守蒼穹、室井玄鸞、松井玉箏、鬼頭墨峻、堀吉光、柳碧辭
- ・ 新監事 下谷洋子、薄田東仙
- ・ 新総務 大平匡昭、渡部會山、大谷洋峻、小原道城、北野攝山
- ・ 新評議員 加藤煌雪、加藤裕、吉田久実子、丸尾謙使、皆川恭舟、増子哲舟、稲村龍谷

第49回高野山競書大会審査終了

5月29日から6月1日まで第2次、3次審査が行われ、学生部・一般部・中国作品の各賞が決定された。

今回展は昨年よりやや減少し、11万2千点余の競書出品があった。最高賞の弘法大師賞には東西日本から小・中・高校生各2名、一般部は全体で2名が入賞、総理大臣賞・文部科学大臣賞各1名、金剛峰寺賞約130名は8月8日高野山金剛峰寺にて開催される表彰式に招待されることになっている。

高野山開創1200年記念献書

昭和40年に高野山開創1150年記念献書事業が全書壇あげて行われ、180点の作品が奉納された。以来49年経過し来年1200年の節目を迎えることとなった。今回も国内全書壇あげてのご協力を頂くべく事業の企画検討を行っている。現在の高野山書道協会はこの1150年の大法要を契機に誕生して充実発展してきたが書壇の機構変革に伴い、現在は毎日書道展系が主流を占め、読売書法会系などの参加は少なくなっている。

この現状を考え今回の献書奉納事業は総本山金剛峰寺と全日本書道連盟が主体となって全国の書人にご協力をお願いすることとなった。献書奉納へのご協力依頼は間もなく行われるが以下の2方式によって行われる。

- ・ 招待作家 全日本書道連盟会員にして読売書法展常任理事以上、財団毎日書道会参事以上、高野山書道協会理事以上で献書事業実行委員会推薦者約300名。半切縦、表装代は本山側負担。
 - ・ 推薦作家 全日本書道連盟維持団体・賛助団体・高野山書道協会参加団体より読売書法会理事以上、毎日書道展審査会員以上、産経国際書会審査会員以上の方、その他上記に準ずる方。全書連会資格は問わない。半切縦以内、軸表装(出品者負担)の作品を献書奉納していただく。
- 趣旨ご理解いただき是非ご協力を。

現代詩文書 (四)

熊谷宗苑

前衛書 (四)

大石仙岳

「浜邊かに哀しみの雪崩れ緑雨」
院創立65周年記念巡回展出品を前に出逢った宗左近の中句です。句の深い世界はわかりませんが3・11の被災地に生きている私には心ひかれる素材となりました。

初めは何の躊躇もなく、いつもの濃墨での制作でしたが締切り間際に「軸装」との出品規定を大発見（ドジでした）濃墨では重過ぎるような気がして大慌てで淡墨への急転回となったのでした。淡墨での作品制作は経験不足を

容赦なく攻め立てられた感じで紙と筆の山が築かれたのでした。いつものように時間的余裕ゼロ。こんな状態の連続でいいのでしょうか。神様！
今回あらためて作品を見て

1・2行目の文字の絡み合いに対し、3行目の小字をもっと小さくし空間を広くとり1・2行の大字にそっとそえるようにすべきだったと反省すること多々ありでした。いままで書きあげた作品は思い出し

熊谷宗苑書

たくない、忘れたいこの思いが強く「過去」に追いやっていました。月並みだけど「過去」があって「現在」があるのです。「現在」も文字を書き連ねての味いなのか、書に昇華させる努力を怠っていないか自問自答の昨今です。

21世紀の書

—私の主張—



富山県展出品

大石仙岳書

想像力、創造力を高める事だ
この道の先賢の方々の目の鋭さ、巧みな技法に頭が上がらない。永年の鍛練によって鍛えられた「心と技」の蓄積であって。学ぶ事が多い。創造的な

発想が造形の閃となる。言葉と対峙しイメージアップする。
「幻想・空想」そして連想する。

自己の可能性を信じて失敗を恐れず、挑戦的精神と冒險心を持って臨む。

富山県展の怖さ

富山県展は、院展や毎日展に出品するよりずっと怖い。何しろ、漢字かな近詩篆刻前衛書のジャンルから選出された審査員によって審査されるので、審査員の出てない所属の出品者は極めて不利なのである。このような県展に入選することによって、富山の書家だと地域の方が評価するので、富山県展は厳しい登龍門である。

この写真の作品は県展の入選作である。六朝の造像の書線によるものであり、息詰まるような切り込んだ強い線で、ぐいぐいと押し切る書線。リズムカルな明るい作が、久々の賞に輝く。

公益財団法人 書道芸術院役員名簿

任期 平成26年 6 月 2 日～平成28年 6 月定時評議員会の終結時まで



顧問 中村倫子
(香川倫子)



顧問 小伏輝男
(竹村)



顧問 恩地春洋



理事長 辻元洋一
(大雲)



顧問 村野栄一
(大仙)



顧問 浜谷喜好
(芳仙)



常務理事 下谷洋子



常務理事 小竹康夫
(石雲)



常務理事 大野定男
(祥雲)



理事 金井正己
(如水)



理事 板垣浩史
(洞仙)



理事 石井明子



理事 飯高和子



理事 小伏靖子
(小扇)



理事 小林悦子
(琴水)



理事 小浜大明



理事 後藤繁雄
(大峰)



理事 千葉敏勝
(蒼玄)



理事 種谷和信
(萬城)



理事 坂本博和
(素雪)



理事 嵯峨瑞雄
(大拙)



監事 浜田正雄
(堂光)



監事 田守光昭



理事 牧 泰正
(泰清)



理事 名越和範
(蒼竹)



評議員 川島美紀子
(舟錦)



評議員 尾形 崇
(澄神)



評議員 大辻多希子



評議員 大井美津江



評議員 稲垣登司子
(小燕)



評議員 飯田久子
(春香)



評議員 竹本純雄
(龍汀)



評議員 清水信好
(翠徑)



評議員 佐藤利満
(無極)



評議員 佐藤周治郎
(香山)



評議員 最首洋子
(翠風)



評議員 熊谷宗子
(宗苑)



評議員 平川峰子



評議員 半田美保
(藤扇)



評議員 畑中 護
(弄石)



評議員 西岡恵子
(雨瑤)



評議員 津田和秋
(海仙)



評議員 田村誠敏
(鄭雲)



参事 滝 仁子
(春芳)



参事 砂本定子
(杏花)



参事 加藤ふく代
(眺溪)



参事 石田高子
(春窓)



評議員 山田沙智子
(梓江)



評議員 三森悦子
(慧香)



参事 山口貫司
(仙草)



参事 千葉幸雄
(耕風)

第 32 回

日本詩文書作家協会書展

俳句と書の世界

会期 平成26年 6 月 3 日（火）～ 8 日（日）

会場 セントラルミュージアム銀座

主催＝日本詩文書作家協会 後援＝毎日新聞社・全日本書道連盟



宇多喜代子「水の魂つらねて跳ねる雪解川」

辻元大雲書



大久保白村「銀座生れ銀座育ちの猫の恋」 砂 本 杏 花 書

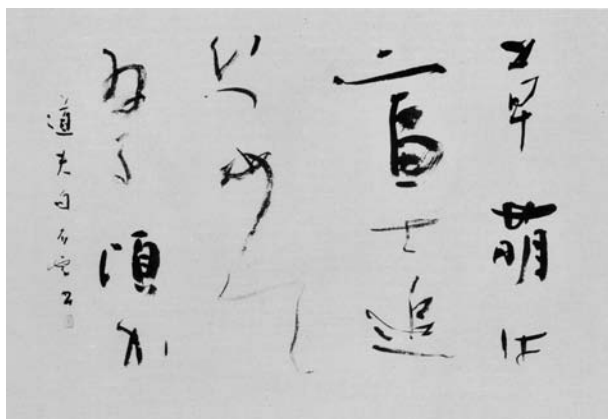
辻田克巳「廻る、言霊、俳句は詩……」



飯高和子書



金子兜太「山峡に澤蟹の華微かなり」 浜田堂光書



中原道夫「草萌は富士追ひつめてゐる頃か」 小 竹 石 雲 書



大串章「秋風や廃船になほ胸の張り」 坂本素雪書

ふけとしこ「無患子のこの鈴生りを落とす風」



小池蹊舟書

橋本多佳子「螢籠昏ければ揺り炎えたゝす」



大隅晃弘書



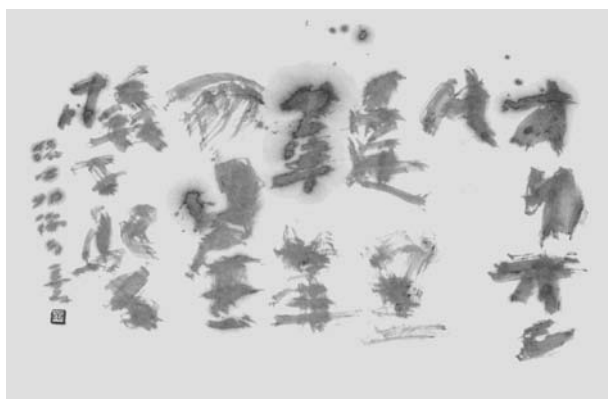
石原八束「檜咲いて古き世の刻塔にあり」 齋藤雨城書



川喜田半泥子「秋風や俺は轆轤の廻るまま」白石和楓書



松本たかし「眼にあてて海が透くなり櫻貝」田中梨梢書



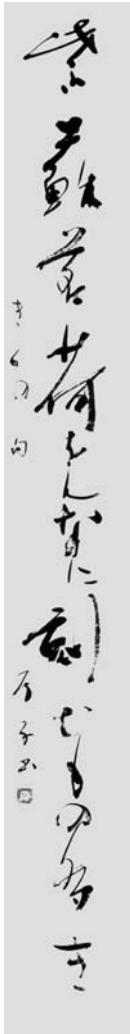
依田明倫「オリオンは韃靼の星橋を駆る」畑中弄石書



渡辺水巴「牡丹二本浸して満つる桶の水」

飯沼恵鳳書

稲垣きくの「紫蘇茗荷をんなに刻むもの多き」

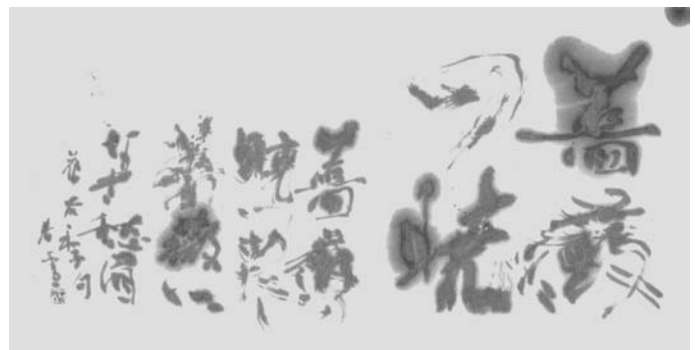


大平房子書



自作「笛太鼓頭に響く虎の舞い」

伊藤懷舟書



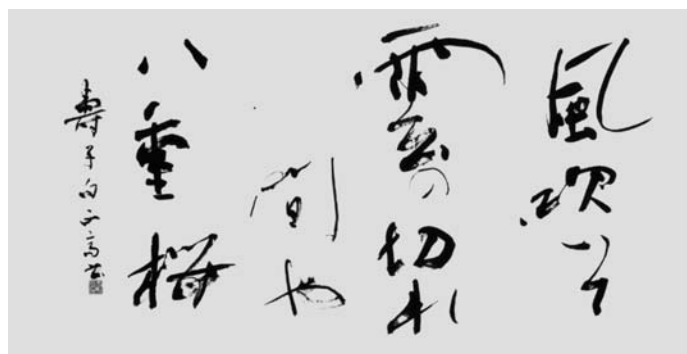
花谷和子「薔薇の暁つめたし薔薇になき愁眉」

大西春雪書

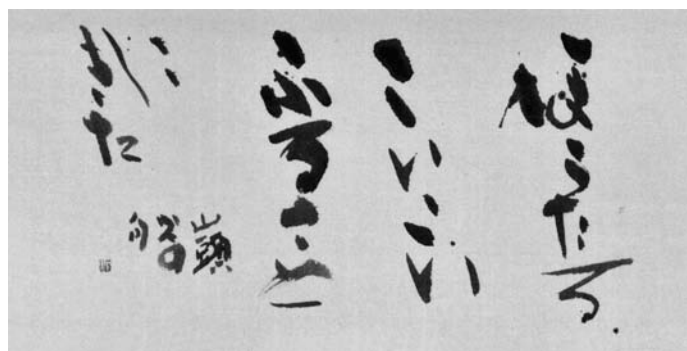
能村登四郎「よき教師たりや星透く鯛雲」



片岡豪峰書



山口壽子「風吹いて雲の切れ間や八重桜」 小竹正高書

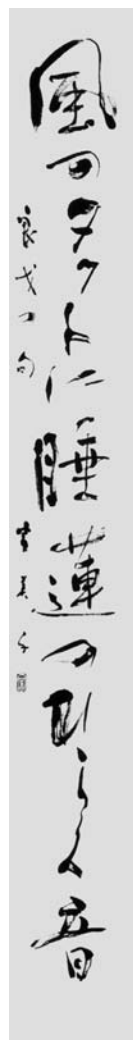


種田山頭火「ほうたるこいこいふるさとにきた」 横田汀華書

《院関係出品者名》

辻元大雲・飯高和子・砂本杏花
小竹石雲・浜田堂光・坂本素雪
大隅晃弘・小池蹊舟・齋藤雨城
白石和楓・田中梨梢・畑中弄石
飯沼恵鳳・伊藤懷舟・大西春雪
大平房子・片岡豪峰・菊池富美子
小竹正高・鈴木英晴・横田汀華

鈴木良戈「風のタクトに睡蓮のひらく音」



菊池富美子書

山口誓子「麦秋や葉書一枚野を流る」



鈴木英晴書

礼器碑（後漢）①

〈解説〉 礼器碑は、正式には「韓勅造孔廟礼器碑」ともいわれ、「れいき」とも「らいき」とも、呼称されます。

この碑は後漢時代に建立されたものですが、当時多くの碑が建立され、特に隷書の代表的作品が数多く残されています。例えば、石門頌、乙瑛碑、孔宙碑、西嶽華山廟碑、史晨碑、西狭頌、尹宙碑、曹全碑、張遷碑などがありますが、中でも「礼器碑」と「曹全碑」は正統的な代表碑として、隷書を学ぶための最

漢字研究部臨書課題

Ⅱ（半紙普通判・縦使用）左記の法帖より何文字臨書してもよい。

特別研究部臨書課題

Ⅱ（毎日展公募サイズ以内・縦横自由）左記の掲載以外にも可。

良の古典とされています。

漢碑の研究者のあいだでも礼器碑は高く評価されていますが「神技のような美しさであり、学んでも近づけないほどである」「力は字外に出て、美として備わらないものがない」とまで絶賛しています。このほか、隷書を善くした中村不折は「隷書八分の帝王である」と言い、日下部鳴鶴は「孔廟礼器碑、漢代第一に推す。精妙、筆に神あり、平正、奇逸を生ず」とも評しています。（編集部）



(77%縮小)

※落款を必ず入れる 署名、もしくは〇〇臨(押印のみも可)

〈碑陽〉 惟永壽二年。青／龍在涪歎。霜月／之靈。皇極之日。

石山切 (伊勢集)

(筆者不明)

①

かな研究部臨書課題

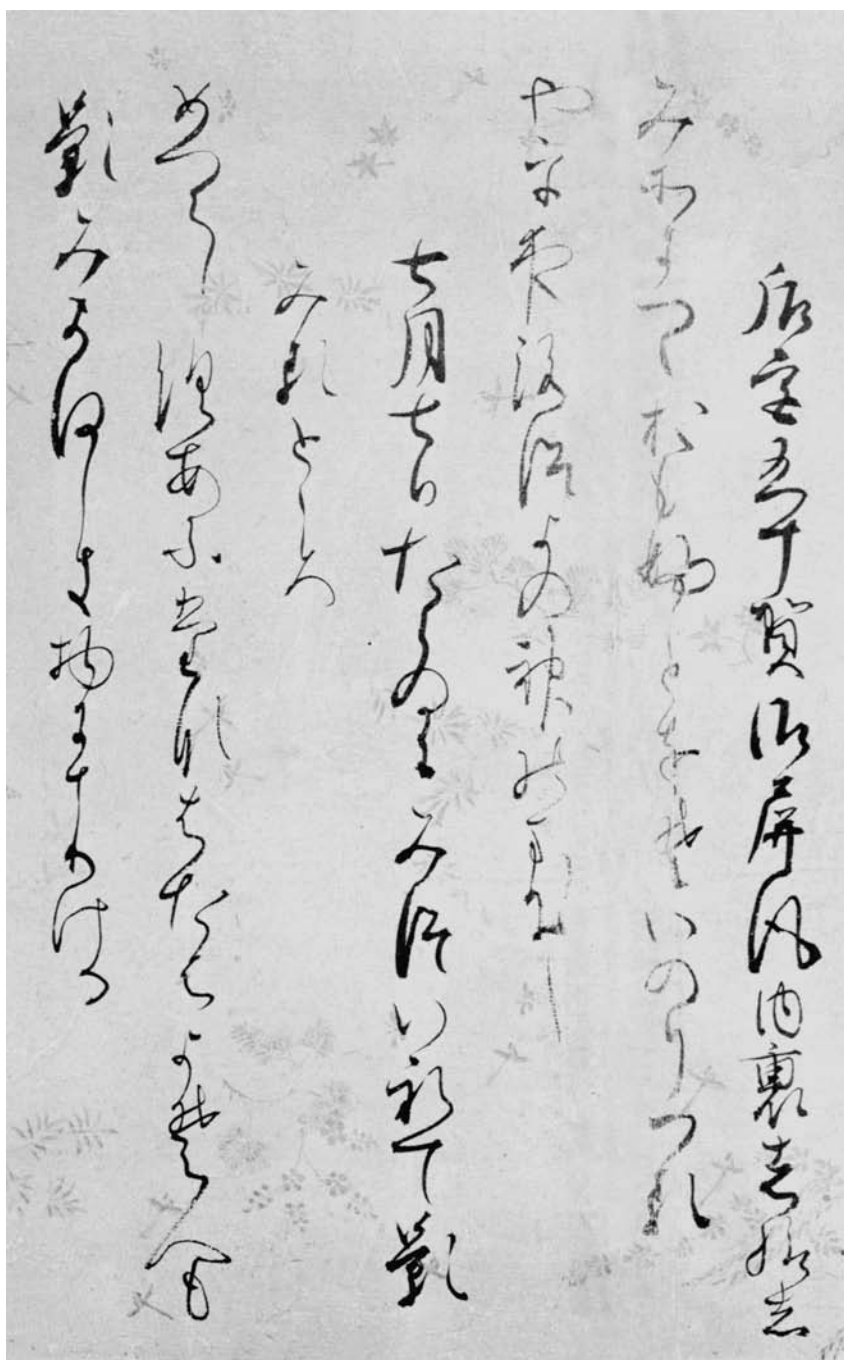
(半紙普通判(料紙可)・縦長に使用)

別紙を裁断して貼付可。半懷紙は半紙サイズに切って使用のこと。
左記の古筆の掲載部分より歌一首以上を書く。(全臨可)

特別研究部臨書課題

Ⅱ (毎日展公募サイズ以内・縦横自由) 左記の掲載以外も可。

※落款を必ず入れる
署名、もしくは
〇〇臨
(押印のみ可)



(90%縮小)

〈解説〉

もとは「本願寺本三十六人家集」の粘葉装の冊子本であったが、昭和4年に「貫之集・下」と「伊勢集」に分割された。本願寺が大阪石山にあったことから「石山切」と命名された。

料紙の装飾的な華麗さは本願寺本三十六人家集の中でも別格、唐紙が多いが、多くの色紙に切継、破継、重継などの凝った技巧がなされ、さらに金銀泥で下絵も施されている。(編集部)

〈よみ〉

后宮五十賀御屏風内裏し給し

みそぎつゝおもふことをぞいのりつる
やをよろづよの神のまに

七月七日たらぬにみづいれて影
みるところ

めづらしくあふたなばたはよそ人も
影まほしき物にざりける

漢字規定 初段以上 【八月十五日締めきり】 用紙 半紙普通判

辻元大雲 選書

習い方解説 (四)

辻元大雲

緑竹白蓮
(緑竹白蓮) (對句集)

単純に緑色の竹と白い蓮の花の意で情景を素直にうたった4字句です。

今回は行書と草書を交えて表現してみました。草書は書作品の表現に欠くことが出来ない書体ですがよく間違えることがあります。省略と筆順の変化が激しく、少しの違いで全く別の文字になる場合があります。良く字典で調べて間違えないようにしたいものです。

草書を取り入れる場合、草書だけより行書も適宜取り混ぜて表現する方が落ち着く場合があります。今回は書き出しの「緑」を行書にしました。もちろん草書で書き始めることもいいと思います。要は全体のバランス、潤渾の変化などで紙面に動きある表現を心がけてください。



緑竹白蓮

よみ (緑竹白蓮)

書体 自由

漢字規定 秀級以下 【八月十五日締めきり】 用紙 半紙普通判

小伏小扇選書

習い方解説 (四)

小伏小扇

雨収花竹涼 (文徴明)
(雨収まりて花竹涼し)

雨があがって花も竹も涼しいという文徴明の語句を選びました。先月と同じ、九成宮醴泉銘を基に書いてみました。

「雨」 4つの点はあまり大きくせず、2点が連動するよう心掛けました。

「収」 偏大、旁小の字形に。

「花」 最終画は右斜めに、はね出すように書きました。

「竹」 バランス良く、書いてください。

「涼」 さんずいの傾きに注意してください。

雨収花竹涼

小扇書

雨収花竹涼 よみ (雨収まりて花竹涼し)

書体Ⅱ楷書

かな規定 初段以上 【八月十五日締めきり】 用紙 半紙普通判（料紙可）

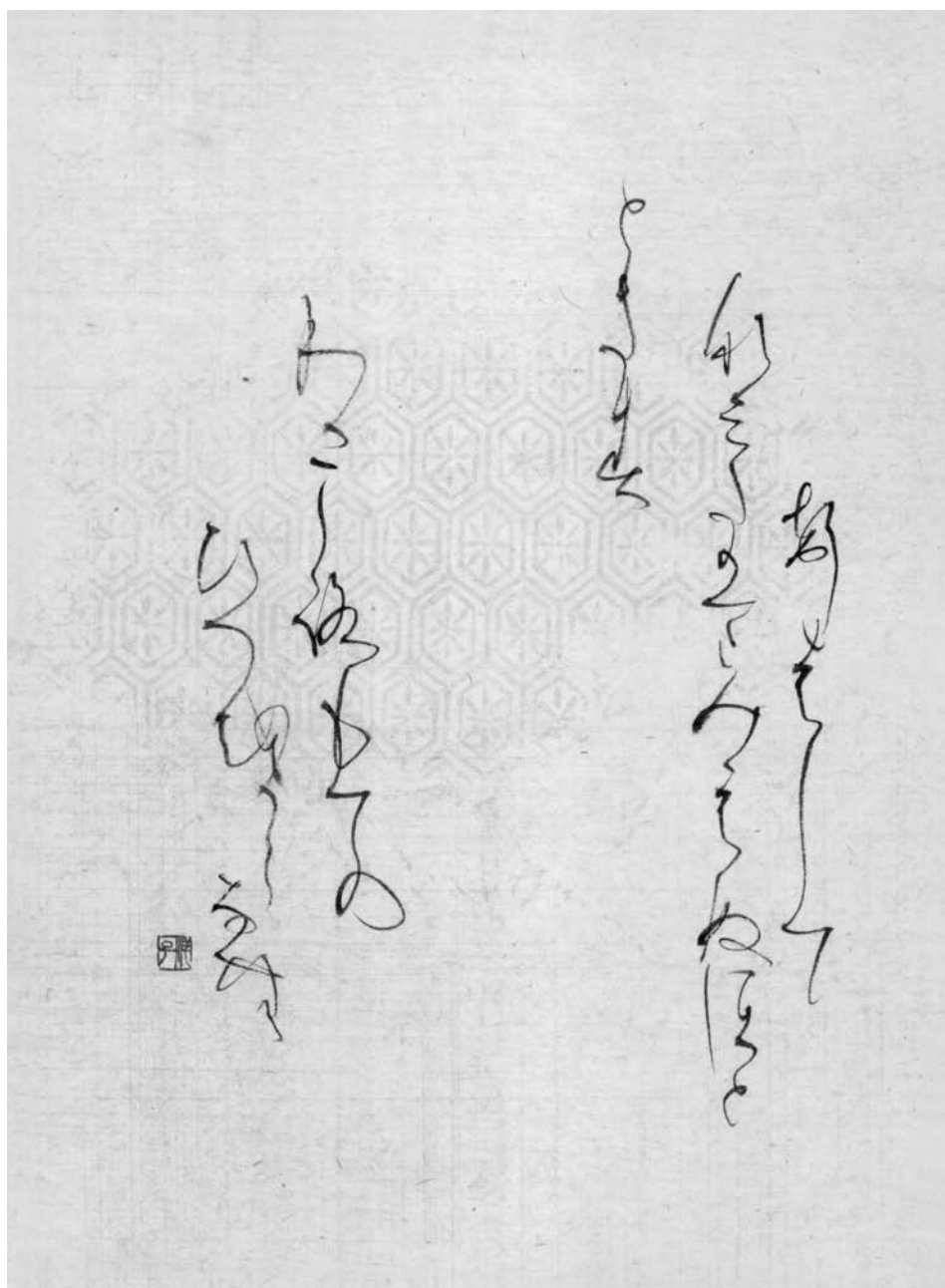
下谷 洋子 選書

習い方解説 (四)

下谷 洋子

声は^{こゑ}して涙は^{なみだ}みえぬ郭公^{ほととぎす}
わが^{こころ}衣手の^でひつを^もからなむ

（古今集読人しらず）



よみ方

声は^{こゑ}（者）してな^な（那）み^み（三）だ^だ（多）は^は（盤）みえぬほととぎ^{ほととぎす}（支）す^す（春）
わが^{わが}（可）ころ^{ころ}（路）もでのひつを^を（越）か^か（可）らな^{らな}（奈）む^む（無）

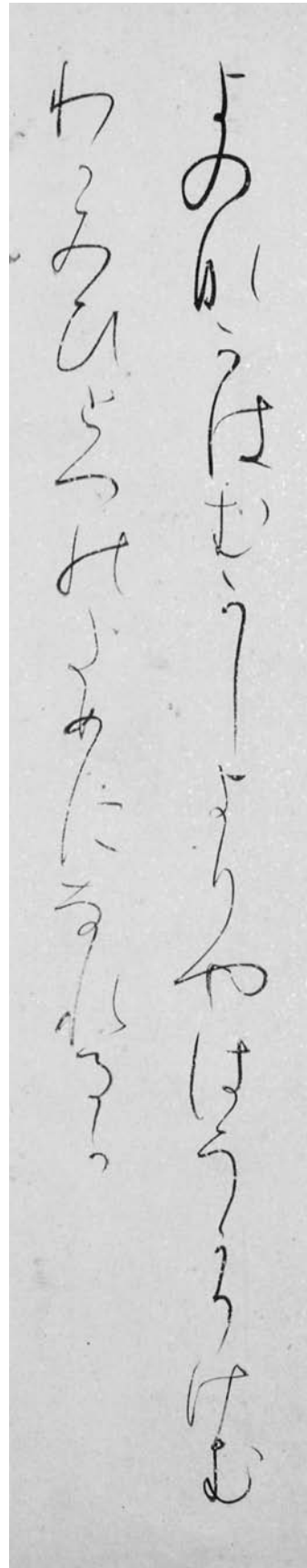
創作

かなにとつての散らし書きは、日本人の文化遺産と言えます。これまで見てきた連綿の長短や揺れ方などを巧みに取り入れ、行に高低差をつけ紙面を構成するのです。掲載は、全体を二つの集団に分けました。大きく空いた三行と四行の行間を中心に、行の張り出しや行の進む方向（指向）をよく見て下さい。注意したいのは、後半三行の脚部もでの・可ら・奈無です。右の空いている間に入り込もうとして行の中心を右に傾けています。これによっておのづと印の位置も決まり、紙面は上部に向かって動くように感じられると思います。散らし書きは、行数、行の高低の尺度などとはわれませんが、行の指向がないものは散漫になります。「継色紙」や「元永本古今集」など名品が多くありますから、動く面を把握しましょう。（自分が泣き濡れて、涙を郭公に貸せるほど流していると誇調した）

かな規定 秀級以下 【八月十五日締めきり】 用紙 半紙タテ1½（料紙可）（たて32センチ・よこ12センチ）

掲載写真のうたを全臨、または部分（二字以上の連綿）を臨書する。

高野 切第三種
（掲載写真縮小93％）

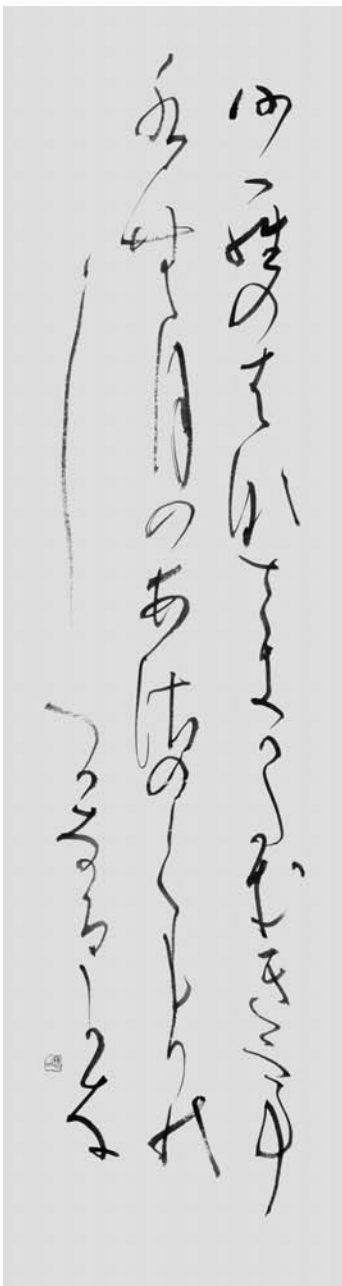


よみ方 よのな（那）か（可）はむか（可）しよりやはうか（可）りけむ

わが（可）みひとつの（能）た（多）めにな（奈）れるか（可）

かな条幅規定 【八月十五日締めきり】 用紙 小画仙紙半切（料紙可）

奥田 瑞舟 選書



よみ方

沙羅^{さら}のは（者）な（那）さき（支）か（可）た（多）むきて（享）水無月の
あさ（佐）のく（久）もりの（能）しつか（可）な（奈）るか（可）な（奈）

創作

習い方解説 (一)

奥田 瑞舟

3行に表現しましたが、2行書より隣りの行の、潤濁・疎密に注意が必要となります。同じにならない工夫をしてください。

（水町京子）

2行目上部に、渴筆で大きな動きを作りたいと思いましたが、線が締まりました。（羊毛・いたち、少し小さめの筆使用）

※たて形式に限る

漢字条幅規定 初段以上 【八月十五日締めきり】 用紙 小画仙紙半切

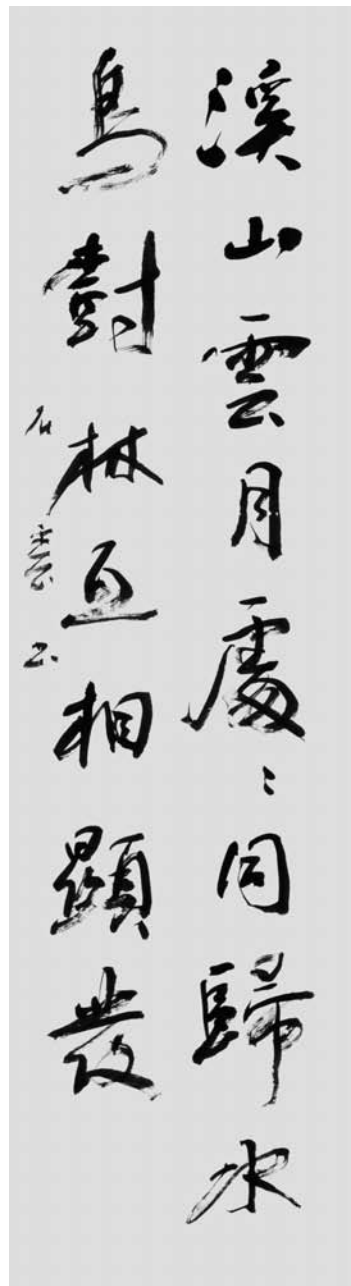
小竹石雲 選書

習い方解説 (四)

小竹石雲

法は種々に説かれ、各々その趣を異にするも、帰する所は一にて、その本旨を得れば妙用無欠なり、との謂です。

単体の行書で書いてみました。極度なデフォルメはさけ、自然な文字造形を心がけました。「樹」「林」「相」で「木」が3か所あるので変化をつけてみました。焦らないよう丁寧に運筆しました。



溪山雲月處々同歸 水鳥樹林互相顯發
(溪山雲月處々 帰きを同じゅうし、水鳥樹林互いに相顯発す。)

書体Ⅱ自由

漢字条幅規定 秀級以下 【八月十五日締めきり】 用紙 小画仙紙半切

小浜大明 選書

習い方解説 (四)

小浜大明

前回同様、行草体1行で表現してみました。今回は1行に7文字を入れてみました。

山や川の自然は人を楽しませ、時のうつりもゆったりと過ぎるの意です。「山」は小さく書きだし、「水」はゆったりと伸びやかに、「娛」を引き締めて「人」はゆったりと……という様な変化をつけることでリズムが生まれてくるものと考えます。



山水娛人歲月長
(山水人を娛ましめ歲月長し)

(葉適)

書体Ⅱ自由

閑さや岩にしみ入蟬の声

梅雨の雲が吹き払われて、夏の青

空が広がるように、突然、蟬の鳴きこし

きる現実の向こうから、深閑と静ま

りかえる宇宙が姿を現わした。

孝予書

用紙Ⅱはがきの大きさ、白色のもの、黒インク使用のこと

書体Ⅱ自由

習い方解説 (四)

小島孝予

無常迅速な時間に洗われるこの世界を、人は何を頼りに生きていけばいいのか。みちのくの旅で生まれた新しい問いを胸に、第三部「宇宙の旅」に入ります。日本海側を西へ、大空をめぐる天体の間を旅しながら無常迅速（流行）とみえる宇宙がじつは永遠不変（不易）であることに気づいた。つまり不易流行とは芭蕉がたどり着いた宇宙観だったのです。

（NHK 100分de名著 松尾芭蕉 おくのはそ道 長谷川權著より抜粋）

筆順は長い書道の歴史の中で、自然にできた約束事です。筆順通り書くことが、文字の正しさにつながり、美しい形にもなります。

また、整った字形にするために、文字の外型を○△□◇▽など、大まかに知っておくと、書く時に形を整えやすくなります。偏と旁のバランスにも気をつけましょう。

※落款を必ず入れる。

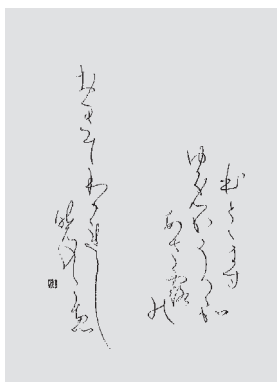
（自分の名前を入れること）

木一作品
各部総評

NO. 637

かな部 師範 岩瀬 祥園

先の利いた筆がゆったりと動き、独創性のある構成が生きて、典雅とモダンとの共存が魅力的です。
◎かな部総評 総じて完成度が高く好ましい。字粒過大で品性を欠くもの散見。制作は歌意に添う思いで抑制をきかせて。(明子評)



かな条幅部 四段 佐藤 麻美

多少熱れない部分もあるが、手本をしっかりと解釈し、丁寧に書き進む姿勢が好ましい。今後に期待。
◎かな条幅部総評 変体が多餘・耶・能・遅など誤字が多く、また横物としての調和に腐心した様子、源字を確認のこと。(洋子評)

前衛書部 特選 土屋 光燐

超濃墨で引き抜かれた鋭い直線が余白に輝きを見せる。印象的な作である。

◎前衛書部総評 明るく洗練された作が増えたが、内情より湧き出る作も欲しい気がする。(蓮紅評)



漢字条幅部 師範 熊谷 桃華

たっぷりした筆致が豊かな表情を醸し出して妙。筆端の切れが爽快で明るくリズムカルな作。

現代詩文書部 特選 氏家 久光

淡墨で強靱な直線による紙面構成で、行間、字間、余白美が見事ですばらしい作です。

◎現代詩文書部総評 構成美の追求のみならず、字形、線質のさらなる追究も必要では。(無極評)



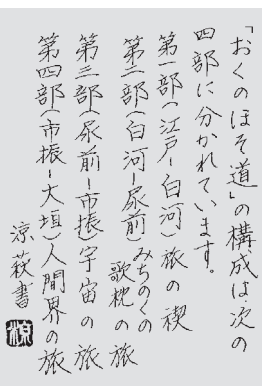
◎漢字条幅部総評 上下級共2行書きで慣れた作多し。逆にあまり変化や特色を発揮したものも少ない。意欲的な取り組みを。(大雲評)



ペン字部 師範 宮城 涼萩

線の切れ味もよく堂々とした字形である。小さい空間を上手に使い伸々と雄大に表現した秀作。

◎ペン字部総評 簡条書きを意識するあまり固くなった作品が多くみられた。ペンの太さにより重く感じられる作もあった。(蒼玄評)



漢字部 師範 磯貝 清輝

軽やかな筆致で書かれた渴線が魅力的。字形が端正で温雅な草書心静かに鑑賞出来る品性高い作。

◎漢字部総評 「封」を「封」に「日」を「日」に誤った作が見られた。校字を正確に。上級者は古典に基く創作を期待。(萬城評)



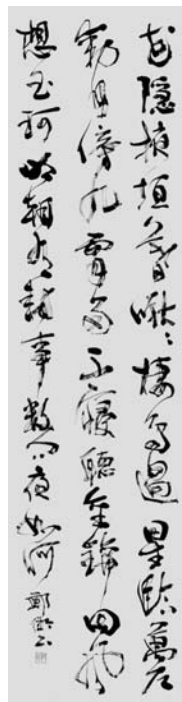
今月の

特別研究部優秀作品(特選)

漢字

(八街) 三浦鄭街

「春宿左省」



三浦鄭街書

137×35cm

現代詩文書

(祥紫)

錢谷雪蘭

「わたしが一番きれいだったとき」



錢谷雪蘭書

180×60cm

◆文字を密集させる手法は古くからあるが、余白のとり方で紙面に動きを与え絵画的。墨が少々重い。

(洋子評)

◆遠くから見ると上部のあきが目立つ。墨の重さを感じるのが少々残念。墨色も一考を。

(倫子評)

◆左右に密集させ中央部を開ける大胆な構成が面白い。墨色の冴えが感じられず残念。更に努力を。

(大雲評)

◆有名な茨木のり子の詩をどのように構成しようかと楽しんでる姿勢が感じられる。成功した縦形式。

(翠風評)

◆半切に3行書きのコンパクトな作だが連筆のリズムが小気味よく楽しげな作。縦の流れがあればなおよい。

(大雲評)

◆心の中に文字が宿り口ずさむ様な流れで表現され見事。墨の濃淡も紙面を生き生きとし表現ぴったり。

(倫子評)

◆羊毛による深みのある線で見応えのある中文字3行書。更に字形に工夫を加えると、ゆとりが出る。

(翠風評)

◆真面目な性格を彷彿とさせる堅実さだが、一方でもう少しリズムに大胆な伸びやかさが欲しい感も。

(洋子評)

前衛書

(白珠)

相内菜摘

「瞬」



相内菜摘書

180×60cm

◆筆と一つとなって体全体での線の表現見事。紙から筆が離れる一時を大事にしたいところを大切に。頑張ってる。

(倫子評)

◆迫力満載で気持ちよい。凝縮した動きをこれだけ幅広く豊かに魅せる技量に敬服。日頃の鍛錬の賜物。

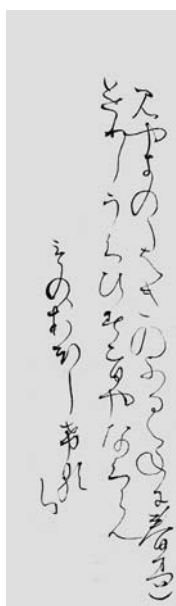
(洋子評)

◆黒と白のせめぎ合いが鮮烈で印象的な作。気力溢れ、紙面に正対する姿勢を賞う。次回作に期待。

(大雲評)

◆瞬間の筆触の音が聞こえるような作。3つの集団が微妙に語り合っている。かすれ部分も美しい。

(翠風評)



根津飛龍臨

36×185cm

臨書 (高崎)

根津飛龍

「香紙切」

◆料紙と墨色が整い、香紙切のシャープな切れ味に円やかなリズムが紙上を踊るよう。拍手かっさい。(洋子評)

◆料紙、墨色の選定が香紙切の線質を生む要素となっていよう。独得のリズムを体得して快い。(翠風評)

◆難しい香紙切をよく観察し、臨書作品として評価したい。料紙の色合いと変化もよく研究している。(大雲評)

◆香紙切の世界に引きこまれたような感じ。文字の表現と呼吸の流れとが一つになった感じ見事。(倫子評)

部分拡大

漢字 (もくせい)

森田藤谷

「遠山」



森田藤谷書

53×136cm

臨書 (大雲) 宮原香扇 「温泉銘」



174×55cm

◆気宇の大きな太宗の書を六尺雅仙三行に巧みにまとめた。線に雅味も加え味わい深い臨書となった。

(翠風評)

◆なかなか難しい温泉銘だが、嫺やかな運筆が深い味わいを残し、大様に品格が感じられます。

(洋子評)

宮原香扇臨

◆やや間のびした感はあるが温泉銘ののびやかさを感じさせている。暢達した中の骨力を表現したい。

(大雲評)

◆ゆったりと表現された雰囲気は、現代に生かす努力を感じがする。欲をいえば内にある力が欲しい。

(倫子評)

◆明るく軽快な筆致で展開する。やや甘さも感ずるが、のびやかさと運筆のリズムを言う。厳しさを。(大雲評)

◆ゆったりとした心の動きが表現されしっとりとした感じ。細い線の表現が所を得て太い線引き立つ。(倫子評)

◆太細を小気味よく利かせ、感覚的な作品が新鮮。リズムが自然で書き慣れた様子、更に冒險を。(洋子評)

◆紙面が明るく、壁面に掛けておきたい作品である。大胆な筆の開閉、終行の「知」は見飽きない。(翠風評)

創作の部(61点)

漢字 10点

かな 4点

現代 23点

篆刻 1点

前衛 23点

臨書の部(26点)

漢字 22点

かな 4点

総出品点数

87点

〈特選候補者〉

〈創作の部〉

「漢字」

墨宣 錦木 梅道

恵雅 板橋 雅邦

「かな」

卯月 栗原 信子

「現代詩」

四葉 千葉 清翠

大雲 長島 僊雨

もく 西川 藤象

東仙 阿部 緑玲

「前衛」

秀恵 阿部 雅悠

大拙 畠中 成山

香書 大木 清香

行徳 浅見由紀子

「臨書の部」

「漢字」

千葉 猪又 理扇

麗澤 富田 瑤翠

立精 磯地 白麗

「かな」

千葉 平野 笛舟

大雲 神谷 雲卿

漢字研究部
(温泉銘)

選評 小 浜 大 明

今月のホープ作品



長 井 久 仙

◎漢字研究部総評

今回は、誤字のある作品が少なく、多数の見事な臨書に接することができ、嬉しく感じ

ました。全体的に、伸びやかに明るい秀作でした。一方、正しい結体を理解しないまま書いている人も少々ですがありました。臨書する前に、書く部分の不明な点は、辞書で確かめることを行って下さい。空筆の部分も大切です。画から画へ移る時、目に見えない筆脈があります。字形だけにとらわれ、空筆を疎んじると生きた書は書けません。



清 清 慶 聳 裕 城
子 風 子 峰 子 園



恵 香 小 観 美 翠
子 風 秋 舟 子 綾



梨 梅 眞 美 百 早
秀 艸 理 子 雲 衣



豊 藤 美 琴 眞 裕
子 穂 子 燐 理 子

〔特別昇級試験臨書課題〕

高 貞 碑（楷書）

漢字部 第一種

半紙に写真掲載の中から5文字を臨書・それ以外は不可



徳如風物應如響。／弱冠以外戚令望。

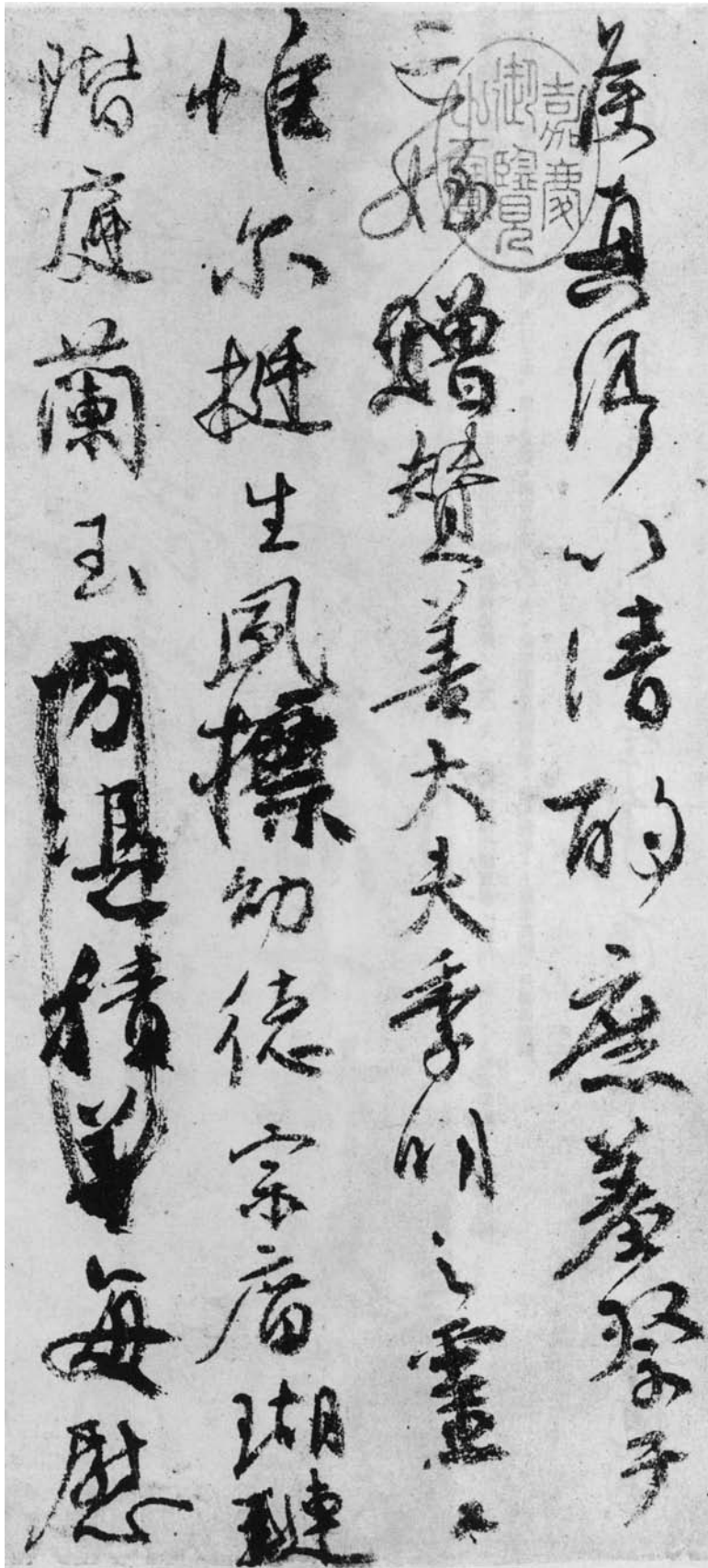
雁塔聖教序（楷書）

漢字部 第三種

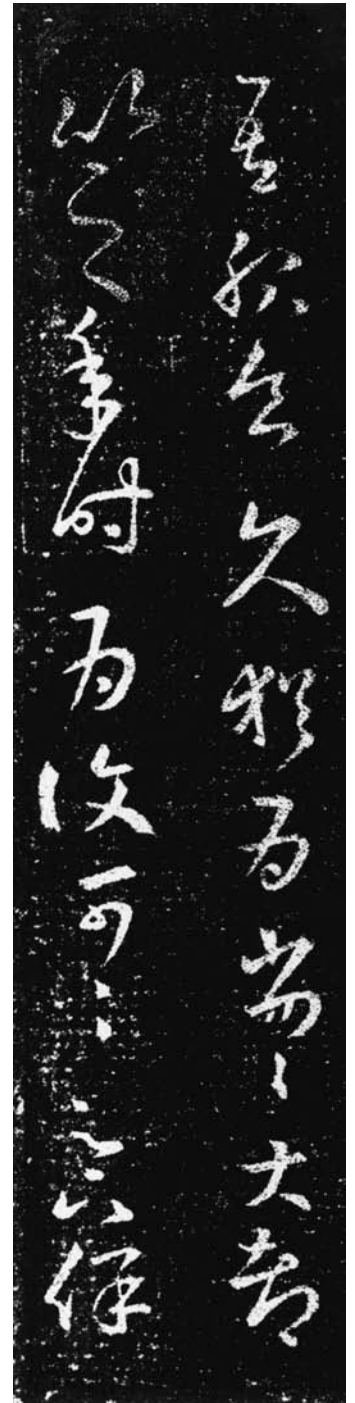
半紙に写真掲載の中から24文字を臨書・それ以外は不可



莫覩。在智猶迷。況乎／佛道崇虛。乘幽控寂。／弘濟萬品。典御十方。



侯真卿。以清酌庶羞。祭于亡姪。贈贊善大夫季明之靈。／惟爾挺生。夙標幼德。宗廟瑚璉。／階庭蘭玉。每慰



吾服食久。猶爲劣劣。大都比之年時。爲復可。足下保

顏勤礼碑 (楷書)

漢字条幅部

第二種

半切に写真掲載の中から14文字を臨書・それ以外は不可



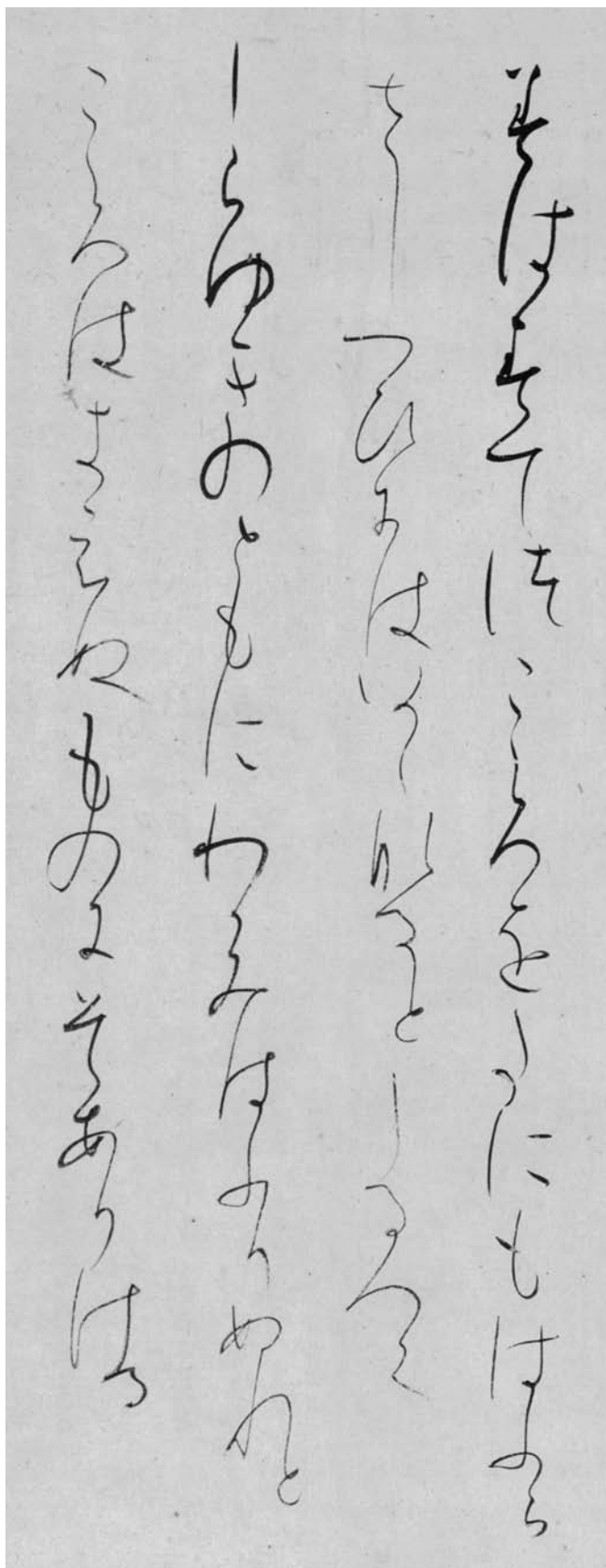
官。江陵少尹荆／南行軍司馬。長／卿晉卿邠卿充

高野切第三種

かな部

第一種

半紙に写真掲載の和歌・二首を書く・それ以外は不可（料紙可）



美^美は^はす^すて^てつ^つこ^ころ^ろを^をだ^だに^にも^もは^はふ^ふら^ら／さ^さじ^じつ^つひ^ひに^には^はい^いか^かず^ずな^なる^ると^とし^しる^るべ^べく^く
しらゆきのとも^可にわか^可みは^可ふりぬれど／こ^支ろは^支きえぬ^支もの^支に^支ぞ^支あり^支ける

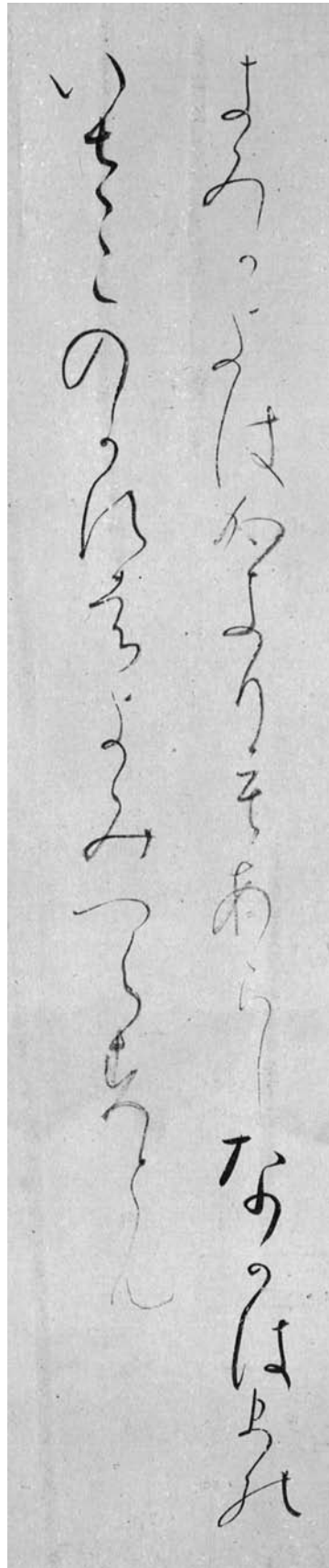
ふのうもちる月の影くら
くはるの46とてりる
一ふあさいそくちよあな
いともあさいかき物ひこめ
あふ

高野切第一種

かな条幅部

第三種

半切に写真掲載の和歌を書く・それ以外は不可（料紙可）



支
きみがよはかぎりもあらしながはまの／いさごのかずはよみつくすとも
支
毛
可
能
可
須
者
久
春
无

ご注意!!

名前のかき方

どの部も氏名または名、号を書く。
臨書は〇〇臨と書く。
印だけでは失格、特になな・ペン
字は注意のこと。